

『鏡の法則』

これは自分の肉体の前に現れる人、事件、環境といった「わたし以外（対象）」が、自分の「内面を写す鏡」であるというものです。例えばあなたの目の前にいる人の、嫌だな！とおもう部分は、実は自分も持っている みたいなことです。これはウチュウが個人の成長を促すために巻き起こす、互いの角と角をぶつけ合わせて、お互いを丸くする荒治療とも言えます。よって相手に対して文句を言うのではなく、自分の内面を改めるまで、目の前の嫌な人は、姿や形、時を変え、面前に出現し続けます。私の経験ですと、常に目の前の人が鏡であるというよりは、この鏡モードが発動すると捉えた方が良い気がします。

『自分の中に、あるから近寄ってくるのであるぞ。嫌なこと起こってくるのは、嫌なことが自分の中にあるからぢゃ』

（日月神示 黄金の巻 第六十六帖）

『内にあるもの変えれば外からうつるもの、響いで来るもの変わりてくるぞ。内が外へ、外が内へ響くのじゃ』

（日月神示 黄金の巻 第九十九帖）

『悪い癖直さねばいつまでたっても自分に迫ってくるもの変わるぞ。おかげないと不足申しているが、悪い癖、悪い内分を変えねば百年祈り続けでもおかげないぞよ』

（日月神示 夏の巻 第十帖）

『何事が起こって来でもまず喜んで迎えねばならんぞ、近づいでくるのは呼び寄せたからぢゃこんな嫌な、汚いものはごめんぢゃと申す人民もあるなれど、それは皆己の心の写しではないか。内に無いものが外から近寄る道理ないのぢゃ、どんなものでも、喜んで迎えると喜びとなる結構な仕組、よく会得せよ』

（日月神示 扶桑の巻 第十帖）

『自分の、内の自分を洗濯して明らかに磨けばよいのぢゃ。内にあるものを浄化すれば、外から近づくものが変わってくる道理。内の自分を洗濯せずにいて、汚いものが近づくとか、世の中が暗いとか不平申して御座るなれど、そこにそなたの間違いあるぞ』

（日月神示 紫金の巻第五十帖）

コレはなかなかキツイ学びで、自分の一番醜いところを備え持った人や事件が、面前に現れるのでタマリません。

そして時には直にケツカを吹っかけられます（苦笑）。いくら鏡の法則 を理解していても、自分の心を冷静に保つのは難しいかもしれません。

ここで 怒り爆発せずに、鏡の法則が提示する問題を乗り越えるテクニクを紹介したいと思います。それは「セドナメソッド」とご存知「ホ・オポノポノ」を併用するテクニクです。

「セドナメソッド」は、もしあなたが自分の鏡の役割を果たしている人に、ムカつく事を言われ、怒りなどがムクムクと湧き上がったとき、その感情を即座にリセットするのに役立ちます。とりあえず冷静に心を落ち着かせるための、即効性のある特効薬みたいなものです。やり方は簡単。

まず自分が相手に言われて生じた感情が例えば「怒り」であれば、それがどのような色、形のエネルギーで、体のどの部分にあるのか？ など、感情をモノとして一度 客観視するのです。「感情Ⅱ人」ではなく「感情Ⅱ人が一時的に持つ所有物」とみなすのです。次に「怒り」などの所有物をそのまま持ち続けたいのか？

自問します。モチロツ、答えは「NO!」ならば次の行程は、「怒り」を手放す行為です。これはイメージワークになるのですが、息を大きく吐きながら、その感情が体から剥がれ落ちていくのを想像します。私の場合は、剥がれていった「怒り」のエネルギーは空中で燃やしながら、四次元トイレなるものを想像し全部流してしまします。所有し続けたくない「感情」は3次元の物質ではない為、4次元（同じ次元）で処理しちゃうという発想です。嫌な感情はウン○みたいなものだと思えます。人間ならばウ

ン○を我慢してはいけません。人間は嫌な感情を発して当たり前動物です。無理な感情の抑圧は心身を蝕むだけです。ただし、感情を開放するという名目で、人前で当り散らしたり、反対に所かまわず号泣するのもやめたほうがよさそうです。確かにあなたはスッキリするかもしれませんが、周りの人はたまりません。それはあなたが、ウン○をとこがまわず撒き散らしたり、垂れ流したりしてスッキリしているのと同じことです（笑）。嫌な感情は、周りの人のことも考慮して四次元トイレにそっと流すとジェントルですネ！

一件落着！ と思いきや、感情を一時処理するだけでは、自分の中の 根本の原因 を解決したことはありません。「鏡の法則」によって自分の悪い癖を見せつけられ、「セドナメソッド」によって感情の応急処置が完了したら、今度はその問題を引き起こす自分の中の 根本原因 を治療しましょう！ その根本原因を解決する方法がご存知、「ホ・オポノポノ」です。これは面前に繰り広げられる諸問題の全てを、己の中に原因を求め、それを解消していくものです。やり方は簡単！ まず対処すべき問題が発生したら、心の中でこう自問します。「一体、己の潜在意識の中のどの情報に問題があつてこのような状況に遭遇するのだろう？」続いて、以下の4つの言葉を心の中でそっと唱えます。

『ごめんなさい』（例・ウチュウが自分の治すべき癖を 鏡の

法則 で知らせてくれているのに、気づかなくてごめんなさい。)

『許してください』(例・発生問題に対して、自分の事として捉えずに、他人のせいにはからしていた自分を許してください。)

『ありがとう』(例・決して見捨てずに、コチラが気づくまで何度も、鏡の法則を使って、自分の内面の悪い癖を教えようとしてくれるウチュウに対してありがとう。)

『愛しています』(例・時には厳しく叱って、時には愛に優しく包んで、まるで我が子の成長を見守る親の気持ちで、接してくれるウチュウに向かって愛しています。)

一度修正した自分の欠点に起因する問題は、二度と起こらないことでしょう。では一体なんで、己の内面を変えるだけで、周りの世界が変わってしまうのでしょうか？ これを解説するには、『原因と結果の法則』も絡めて説明すると手取り早いと思われるます。図では、5次元以上の世界を、「原因の世界」、3次元の肉体の存在する世界を「結果の世界」と記しています。ジェームズ・アレンの著書などで有名な原因と結果の法則は、何も今に限った事ではなく古く仏教で言われてきたことです。(ちなみに釈迦も竹内文書の皇祖皇太神宮への留学生でした。)

原因と結果の法則それは仏教という「因縁生起」というものです。解りやすく言うと、「万物は、因という種と縁という土、水、日光のような生育条件によって生起した花」ということです。

ですから万物において全体があるからこそ個々は存在し、逆に

言うと、個々の存在が全体を構成しています。そこから独立した個々(実体)はありません。言い換えると、「私があるからこそ、世界が存在し、私自身がその世界の一部である」ともいえます。これは、仏教の三法印のひとつ、諸法無我にも通じ、今時というと須藤元氣さんの座右の銘 We are all one! にも通じます。

ですから、世界を構成している己(原因)を変えるだけで。連動してまわりの世界も変化す(結果)という仕組みです。モチロン人生では『鏡の法則は理解した!! だけど絶対ヤツだけは自分の鏡ではない!!』と断言でさるような、強烈な相手も登場するかもしれませんが。確かに全てを 鏡の法則で説明するのはちよつとやり過ぎな気がします。実際はそこに、今から説明する引き寄せの法則や、前世や今世のカルマの法則の影響、生まれる前の魂での人生設計や、運命も大きく作用しているからです。むしろそれらのほうが、人との出会いには、大きな影響を及ぼしているような気がします。要は人生は鏡の法則の荒治療だけではナイということです。だから目の前の嫌なもの全部を100%自分の鏡と捉えて、凹まなくても全然大丈夫なんじゃないでしょうか!? ここら辺の捉え方はケースbソケースですかね……。

次は「鏡の法則」とは表裏一体をなしている、「引き寄せ(波動)の法則」です。

これは自分の思考の周波数と同じような環境が、身の回りに集まってくるというものです。原因と結果の法則 観点から説明すると、人間の想像力を使って物事をイメージング化し、それが5

次元の原因の世界に影響を及ぼす事によって、3次元の結果の世界に現れてくとも言えます。これはワクワクするプロセスであり、人生のフローチャートを、より良い方へ導く事も可能なエネルギーギッシュなツールです。さらにイメージをより現実化するためには、なるべく詳細に物事を想像し、それに見合った行動をどんどん行じるということです。後述するバイブルコードなどから判断すると、年々この傾向は強まり、2015年以降は更に強まる感じがします。しかし、現在のスピリチュアル界では、これだけで宇宙の全てを説明しようとする傾向があると思いますが、まだまだ、運命やカルマの法則の方がその影響は強いでしょう。まずは、己の身魂の掃除が先決なんでしょう。注意点は、執着心が強すぎる場合は、曲がった結果を導いてしまうことです。ですから、適度に執着心を手放すことも必要でしょう。また、他人が辛い境遇に陥っている時に、「それはあなたが引き寄せているからだよ!」とコメントする程残酷な事はありません。他の人に対して引き寄せの法則を説明する時は、ハッピーな出来事に対してのみ使うのが最低限のマナーだと思います。

『臣民皆にそれぞれのキ植えつけたあゝのざぞ、嬉しきは嬉しきこと生むぞ、悲しきは悲しき生むぞ、恐れは恐れ生むぞ、喜べ

ば喜ぶことあると申してあろうがな。天災でも震災でも、臣民の心の中に動くキのままになるのざぞ』

(日月神示 磐戸の巻 第二帖)

続いてこれもおなじみ「カルマ(因果応報)の法則」です。

これは自分がした行為が、そのまま時や人生を越え、跳ね返ってくるというものです。「自業自得」「身から出た錆び」「自分でまいた種」つてヤツです。大局的に俯瞰すると、加害者、被害者両方の立場を経験し、魂のふり幅、経験値を上げるための法則のような気がします。Happy な事をして、それが返って来る分には、嬉し楽しんで感謝感謝ですが、人生そればかりではありません。今現在、病気や怪我、犯罪や被災、不倫や離婚、左遷や失業、離別や死別といった過酷な状況にある方もいらっしゃるかもしれません。

しかし、たとえ悪因縁やカルマの負債を沢山抱えていたとしても、ウチュウのルールの一つがカルマの解放であるならば、肉体として生まれてくる前の、魂白身が、来世の人生設計においてベストな青写真(人生目標)を作成している筈です。よって人生で起こりうるイベントが過酷な経験の連続だったとしても、ひょっとしたらウチュウ(あなた)自身が、設定している場合もあるかもしれません。それらを経験する事により、過去や他生のメグリ(悪因縁)が清算され、そこで何か気づくことがあれば、またひ

とつ魂が成長を遂げることでしょう。

『メグリと申すのは、自分のしたことが自分にめぐってくることであるぞ。メグリは自分でつくるのであるぞ。他を恨んではならん』

(日月神示 黄金の巻 第七十七帖)

『損もよいぞ。病気もよいぞ。怪我もよいぞ。それによってメグリ取って頂くのぞ。メグリなくなれば日本晴れぞ。今がその借錢済ましぞ』

(日月神示 黄金の巻 第八十三帖)

『行は、世界中の行、誰一人逃れるわけにはいかんぞ。メグリ果たしたものから、嬉し嬉しになる仕組み。そなたの心配一応は無理ないなれど、何処で、どんなことしでいでも、身魂磨けてさえなれば、心配なくなるぞ』

(日月神示 補巻 月光の巻 第三十六帖)

『親子、夫婦、兄弟姉妹と生まれても、逆縁あるぞ、カタキ同志結ばれることあるぞ。それは神のおおき恵みぞ。それに打ち克って、新しき生命うみ出しつかえまつれ。体験ないところに宗教はない』

(日月神示 春の巻 第二十八帖)

過去のカルマや因縁というウチュウのルールに気づいて、全ては自分自身のせいであることを認め、至らない点はウチュウにお詫びして身魂を磨いて行く……そうすれば、大難は小難となり、カルマはいつの間にか清算され、人生が好転していく筈です。だから、物事、現状に執着することなく、過剰に恐れることもなく、起こることありのままを受け入れられる事が出来れば、全ての事は必然・必要・ベスト (By 船井幸雄さん) であるということに気づくのかもしれませんね。何故人生において「悲しみ」や「痛み」などの不幸なことが存在するのか？ この真の意味を知った時、あなたの意識はまた一つ、拡大します！ 結局、大きな目で物事を捉えると、この世ではありかたいことしか起こらないと言うわけですね。

そして、いよいよ「運命」についての説明です。

これを説明するには「聖書の暗号」が手っ取り早いですね。「聖書の暗号」とは、旧約聖書のトラーとも呼ばれる「モーセ五書」のヘブライ語30万485文字を基盤目状に並べると、ある一定の間隔で、過去および現在の、地球人類約70億人の人間の名前や出生日時、命日、使命、結婚相手やツインソウルなどについて、意味のある単語が浮かび上がってくるというものです。

これは主に、パソコン上で旧約聖書の全文をデータ化して検索できる「Bible code message」というソフトがあり、それにキーワードを入れて調べることができます。そしてこの「聖書の暗号が使えるのは2015年まで」とはっきり表示されているようです。恐らく『運命』とは、個々の魂がバラエティに富んだ人生経験をするため、ある程度の「歴史や人生の青写真（目標）」なるものが既にウチュウに出来ていたのでしよう。

日本の聖書の暗号の解読者であるイオン・アルゲインさんは自分自身の検索結果について、「元カノ数人の名前から、自分の3つの命日、過去世での職業や今世の使命まで描いてあった！」と大変驚いたようです。ただし、はじめに断っておきますが、イオンさん自身の命日も3つ表示されている位なので、「運命」といっても絶対的なものではなく、状況によって柔軟に変わる、フローチャート形式なモノ？と捉えたほうがいいようです。重要なのは「運命」は「宿命」で100%固定、なのでは決してなくその人の考え方、生き方により左右されるみたいだということです。恐らく「運命」とは、個々の魂がバラエティに富んだ人生経験をするため、ある程度の「歴史や人生の青写真」を設定してきているのでしょう。目標青写真は存在しながらも、あなた次第で運命は変わる！「Life is art.」とは、よくいったものですね！（なんでウチュウ予想図では引き寄せの法則が運命に穴をあけています！）

『運命とは自由自在のものではあるが、また強いものでもあるぞ。大きくも、小さくも、薄くも、厚くも、その人の心次第に変わるのぞ。もとは霊界にあるからぞ。嬉し嬉しで運命迎える気、結構ぞ。この世のことだけでこの世のこと動かんぞ。霊界との関係によって、この世が動いている道理わからねばならん』

（日月神示 黒鉄の巻 二十九帖）

そして重要なことは「聖書の暗号＝運命」のタイムリミットが2015年。だからこそ、今世を経験している我々は「運命」＝「宿命」←「立命」という大きなウチュウの転換期に生きているとも言えるんじゃないでしょうか!?

いつか行き着く先に涅槃寂靜の天国のようなミロクの世が本当に存在するかどうかは、今後のあなたの立命しだいかもしれません。だってあなたの宇宙の創造主はあなた白身なんですからね！

『天国と申すのは一人の大きな人間であるぞ。天国は霊人のみの住む所ではないぞ。そなた達も今住んでいるではないか。霊人も現界に住んでいるではないか。現界をはなれて天国のみの天国はないのであるぞ。故にこそ、現界で天国を生み出し、天国に住めんものが、死んで天国へ住める道理ないのぢや。アメツチと申してあろう。この道理よくわきまえよ。』

（日月神示白銀の巻 第三帖）

『宇宙は人間の心のままと申してあろうが。宇宙は未完成のものと申してあろうが。永遠に未完成であり、弥栄であるぞ。そこに生命あり、喜びあるのじゃ』

(日月神示 黒金の巻 第三十七帖)

『LIVE上映版』日月神示へ上▽ ○九十、磊人 ヒカルランド